

1. 事務局からのお知らせ

(1) 入会について

事務局では、入会案内を用意しております。皆さんの周辺にフランス語学について興味をもち、学会への入会を希望している方がいらっしゃいましたら、事務局に案内を請求して下さるよう、アドバイスをお願いします。折り返し、希望者に案内を送付します。

(2) 会費納入について

まだ会費を納入していない方は、ご送金くださいますようお願いいたします。

会費の送金は、個人の会費の場合、郵便振替のみ受付けています。銀行には振り込まないで下さい。（郵便振替口座番号 00160-6-56308）

なお、未納入の方々には学会誌『フランス語学研究』(BELF)と請求書をお送りしますが、2年以上の会費滞納者にはBELFはお送りしません。また、4年間会費の納入のない方は、退会扱いとなりますのでご注意ください。

(3) 住所変更などについて

住所（連絡先）や所属機関の変更があった場合には、ご面倒でも、なるべく早く事務局にお知らせ下さいますようお願いいたします。遅れますと、例会通知や講演会などの連絡が転送によって遅れたり、届かないこととなります。

会費送金のついでに振替用紙などに新住所を書く場合は、変更がある旨、通信欄に書き添えて下さると助かります。

(4) 例会通知について

例会通知は、原則として、葉書を送って下さった方にお送りしております。通知をご希望の方は、官製はがきにご自分の住所、氏名を表書きしたものを10枚ほど（約2年分）、事務局（下記住所）にお送り下さい。

なお、ご自分の宛て名は、○○○○「行」とせず、○○○○「様」として下さい。当方の発送の際の手間が軽減されます。

【通知用葉書の送り先】

〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1
東京都立大学人文学部仏文研究室内
日本フランス語学会事務局

「ハガキ切れ」の印の押された通知を受け取った方も、同様に通知用葉書をお送りください。印刷に間に合わない場合、直後の例会通知が送れないこととなりますので、なるべくお早めにお送りください。

(5) 編集委員・役員の交代

本年度は、次のように編集委員及び役員の交代がありました。

【編集委員辞任】青井明(国際基督教大学)、
小熊和郎(西南学院大学)、
春木仁孝(大阪大学)

- 【編集委員新任】木内良行(大阪外国語大学)
【運営委員辞任】青木三郎(筑波大学)、
川口順二(慶應義塾大学)(以上関東)、
東郷雄二(京都大学)、
春木仁孝(大阪大学)(以上関西)
【運営委員新任】阿部宏(東北大学)、
鳥居正文(青山学院大学)(以上関東)、
大木充(京都大学)、
三藤 博(大阪大学)(以上関西)

(6) 論文寄贈その他の募集

紀要などに過去3~4年に発表されたフランス語学に関する論文などがありましたら、抜刷を事務局宛にぜひお送りください。『フランス語学研究』の「寄贈論文目録」にタイトルを掲載します。

また、同じく過去3~4年に発表された修士論文がありましたら、その執筆者名・タイトル・大学名(提出先)・年度をお知らせ下さい。ご本人はもちろん、その関係者の方からのご連絡でも結構です。

貴重な情報になりますので、ぜひご協力ください。

(石野 好一)

2. 例 会 案 内

次回以降の例会の予定は以下のとおりです(変更の可能性があり、タイトルも仮題です)。

1 1月以外は上智大学で3時~6時に開かれます。

6月29日(土)

田原いずみ(東京大学大学院) 「絵画的半過去」
青木 三郎(筑波大学) 「近接未来形」

9月28日(土)

佐藤 淳一(筑波大学大学院) 「不定詞と補足節の交替」
大木 充(京都大学) 「イントネーションとジェスチャー」

10月19日(土)

中川 恭明(中央大学) 「疑問文の音調と発話意図」
前島 和也(慶應義塾大学) 「<<la>> de cloture」

11月1日(金)名古屋大学

平塚 徹(京都産業大学) 題未定
西山 悦代(関西大学大学院) 題未定

(*11月は名古屋大学で開催されるフランス語フランス文学会秋季大会にあわせて名古屋で例会を開きます。)

12月7日(土)

川口 裕司(東京外国語大学)
「フランス語の歴史を刻んだ音変化：有声化、二重子音の単音化、二重母音化」
東郷 雄二(京都大学)
「会話フランス語の発話ストラテジー」

例会案内は事務局に葉書をお預けになった方には通知を発送していますが、それ以外に『月刊言語』(大修館)、『ふらんす』(白水社)にも掲載される場合がありますので、ご参照ください。またこれら雑誌案内に必要ですので、例会発表者は発表の3月くらい前にタイトル(仮題でも可)を事務局にお伝えください。

1997年度例会発表者を募集しています。希望者はお近くの編集委員、または事務局までお申し出ください。

3. 運営・企画担当委員より

関東の運営・企画担当は川口・青木が、また関西では東郷・春木が担当してきましたが、1996年4月からメンバーが変わりました。関東は阿部と鳥居で、関西は大木と三藤になりました。より開かれた学会運営を目指していきますので、会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。

昨年度は Francis CORBLIN氏 (Rennes) が東京 (早稲田大学と共催) と京都で、また Antoine CULIOLI氏 (Paris 7) が東京 (青山学院大学と共催) で講演をして下さいました。今年度については1996年3月現在、海外研究者の特別発表の予定はありません。なお8月には慶応義塾大学三田キャンパスで、国際フランス語教授連合の第9回世界大会が開催されます。その機会に来日する研究者の中には言語学を専門とする方もいらっしゃると思われませんが、フランス語学会は8月には例会や特別発表を避けているため、会員の方々は直接世界大会を通して交流をお求めください。

昨年春のフランス文学会が行われた青山学院大学では、「教科書文法を考える」(関西企画) というテーマでフランス語学会シンポジウムが開かれました。本年度の早稲田大学で予定されているシンポジウムは、関東が企画する番で、「フランス語の語法と翻訳の諸問題」について準備が進められていますが、このニューズレターをお読みになるころは多くの会員の方がこれに参加なさったことでしょう。

昨年は初めての試みとして、京都で語学会の翌日に「語順をめぐって」というテーマでシンポジウムが開かれました。内容は『フランス語学研究』の「シンポジウム報告」をご覧ください。予想を大きく越えた多数の方が参加して下さい、今後の例会の運営の仕方を考えさせられるものでした。

例会発表の希望に限らず、例会や特別発表の内容や運営の仕方などについてご意見がおありの方は、お近くの編集委員にお気軽にお申し出ください (編集委員の構成は1996年4月で部分的に変わっていますので『フランス語学研究』巻末をご参照ください)。

(川口 順二)

4. 編集責任者だより

初夏の風によって『フランス語学研究』第30号をお届けします。新しいジャンル「展望」と「情報ファイル」を加え、今回も多くの方々の協力のもとに完成いたしました。ご執筆くださった方々、そして編集委員の皆様にご心からお礼を申し上げます。

1年間編集責任者をやり、いろいろなことを学びました。責任者は最終的な雑誌づくりをやらんで1年間活動していくわけですが、夏に全体の企画をたてた後、晩秋から春にかけては心の休まる時がありません。それでもなんとかやってこられたのは、編集委員の方々の協力と、そしてなによりも前、前々編集責任者作成の強力な助っ人「マニュアル」のおかげです。

1年間座右の書とさせていただきます。記して感謝いたします。

今年はフロッピー入稿になって2度目の印刷でしたが、執筆要項もより完備し、またよくそれを守って原稿を作成して下さったため、作業はスムーズに進行しました。今後ともより一層開かれた雑誌づくりを心がけたいと思います。ぜひご意見やご提案をおよせください。31号の編集は青木三郎さん (筑波大学) がご担当になります。

最後になりますが、長い間われわれの雑誌づくりにご協力くださった研究社印刷の板倉永治氏がこの2月に永眠なさいました。優れた編集者であった氏の死を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(30号編集責任者 古石 篤子)

フランス語学が研究できる大学(院)

このコーナーでは、国内の大学・大学院で、フランス語学が研究できるところを順次紹介しています。前号では筑波大学と大阪大学をご紹介しましたが、今回は上智大学と東北大学です。

上智大学外国語学部、大学院外国語学研究科

上智大学外国語学部は主専攻・副専攻制をとっています。主専攻には英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・ポルトガル語の6学科があり、副専攻には国際関係論、言語学、アジア文化の3副専攻があります。学生は主専攻科目に併せて副専攻の科目を履修して卒業しますが、学生の好みに応じていかような組み合わせも可能になっています。卒論は主専攻、副専攻のどちらで書くことも可能です。フランス語学科はいわゆるフランス語の運用能力をつける授業のほかに、地域研究科目、言語コミュニケーション科目の3本立てになっています。言語コミュニケーション系のうち、フランス語学関係は南館、泉が、フランス語教育学関係は田中、原田が講義ないし演習を受け持っています。言語学副専攻には理論系、応用系、言語障害系、同時通訳系の科目が多く用意されているので、フランス語学科開講の科目と併せて履修することによって、一般言語理論の基礎の上に立ったフランス語の研究が可能になります。なお、言語学副専攻の科目として、南館が文法論II、泉が意味論を開講しています。

大学院外国語学研究科は現在、国際関係論、言語学、比較文化の3専攻がありますが、近く地域研究専攻が加わる予定です。言語学専攻(博士前期・後期課程)は理論言語学、応用言語学、言語障害研究(前期課程のみ)の3コースからなっていますが、一般理論と個別言語との関係を重視するカリキュラムが特長です。さまざまな言語を専攻する学生の間での交流ができ、研究会もあるので、個別言語の研究においても広い視野からものを考えることができます。フランス語を研究する場合、理論か応用に属することになりますが、フランス語学関係では南館、泉、メランベルジェ、ロベルジュの4人がそれぞれ、文法論、意味論、文体論、音韻論を担当しています。なお、修士論文は専攻言語を使用して書くことになっています。入試は2月です。問い合わせは、上智大学外国語学研究科言語学研究室まで。

(泉 邦寿)

東北大学文学部、大学院文学研究科

東北大学の学部でフランス語学の授業を開講し、この分野の卒業論文を出すことができるのは文学部文学科フランス文学専攻課程です。学部では手短に「フランス文学専攻」という名称にしていますが、前述のように、フランス語学の授業が幾つも行われており、これを主専攻とすることができます。ただし、学部生はフランス文学の一定の単位を修得することも必要です。

大学院文学研究科は研究室の基本構成に関しては学部の場合とほぼ同じです。したがって、フランス語学を勉強するのであれば、「フランス文学フランス語学専攻」ということになります。大学院では、主専攻を明示するという考え方だと思いますが、専攻名の中でもフランス語学をきちんと詠っています。

以上の文学部・文学研究科でフランス語学の授業を担当しているのは阿部、佐藤、フランス人教師の3人です。なお、連続講義で語学の専門家が来てくれる年もあります。

大学院文学研究科の入学試験は、前期課程・後期課程とも例年1月下旬に行っています。特に、大学全体で大きな改革を行った3年前から、文科系では次第に5年一貫教育という考え方が強まっているように思います。ただし、東北大学は全学で門戸開放主義を標榜していますので、今のところは後期課程への途中入学も歓迎しています。過去の試験問題はフランス文学研究室で閲覧し、コピーすることができます。詳しくは、研究室助手に連絡し、具体的な指示を受けて下さい。試験要綱等については文学部教務掛にお願いします。

この他、文芸・言語に関する研究を行う組織としては、大学院国際文化研究科もあります。

こちらは独立研究科という、特定の学部と連携する訳ではない、自立した大学院組織です。ここでも、学生として希望すれば、フランス語学関連の研究ができます。現在のところフランス語学研究を特に専門とする教官がいませんが、関連する多彩な講義・演習が開設されています。同研究科についての詳細な資料は国際文化研究科教務掛に問い合わせてください。

(佐藤 正明)

研究会案内

学会の例会以外に開かれている研究会のご案内です。

フランス言語学を一緒に勉強する会

毎月原則として第2土曜日の3時から6時に慶應義塾大学(三田)で勉強会を開いています。今後の予定は次のようになっています。

6月15日(土) 福本宏美(東北大学大学院)

「comme si について」

7月13日(土) 前島和也(慶應義塾大学)

「la de cloture」

参加ご希望のかたは、藤田知子(神田外語大学)までご連絡ください。

関西フランス語学研究会

原則として毎月第3土曜日の午後に、大阪日仏センター(地下鉄南森町下車)で研究会を開いています。大学院生の人たちを中心とした、気楽な発表の会です。例会の案内を希望される方は、福島祥行までお申し出ください(558 大阪市住吉区山之内1-8-15-302, e-mail PXA05142@niftyserve.or.jp)。

海外大学言語学事情

前号からフランスの大学の言語学事情を紹介しています。今年もフランスに留学中の若手研究者の方たちから、ご自分の勉強されている大学の事情が届いていますので、ご紹介します。大学名、コース名(博士課程)、教授陣、授業内容(コースの特徴)の順にまとめておきます。

パリ第8大学

Departement des Sciences du Langage の中に Linguistique Generale, Didactique de Langage, Traitement automatique de Langage の三つのコースがあります。その中の Linguistique Generale コースでは、Anne ZRIBI-HERTZ (代名詞と深層構造の関係)、Alain ROUVERET (ミニマリストプログラムで動詞文における接辞の位置づけなどの機能範疇の研究)、Leria PICABIA (記述的統語論の立場から predication について)、SAUZET (生成音韻論)、Nicolas RUWET (心理動詞、詩学)、Pierre CADIOT (認知言語学) などの授業があります。パリ8は全体として特に生成文法を中心とする統語論が主流です。学生と先生の垣根が低く、授業でも活発な議論が行われるのが特徴ですが、予算不足からか図書室などがやや貧弱なのが欠点です。

パリ第7大学

DEA はLinguistique theorique et formelle とPhonetique がありますが、Doctoratには、Linguistique theorique et formelle しかありません。教授陣は24人で構成されています。生成文法のみならず科学認識論まで幅広いJean-Claude MILNER（統語の記述と理論研究）、現在学科長を勤める Bernard CERQUIGLINI（言語政策の諸問題）、Josiane BOUTET（口語フランス語、社会言語学）、Maurice GROSS（仏語統語論と一般統語論）、Helene HUOT（形態論と語彙意味論）、Denis PAILLARD（理論言語学）、J.GUILLEMIN-FLESCHER（翻訳の諸問題と比較統語論）などのセミナーがあります。また所属は他大学・研究機関ですが、Catherine FUCHS、Francis CORBLIN、Irene TAMBAなどもパリ7で授業をしており、教授陣は充実していると言えます。

パリ第3大学

Ecoles Doctorales の中に仏文学・比較文学コース、ロマンス語・ラテンアメリカ研究コース、東洋語・東洋文化コースがあります。最後のコースの中に、Sciences du langage et Traductologie があり、そこでフランス語学を選択することができます。Laurence DANON-BOILEAU（言語とシンボル作用、文学テキスト分析、精神分析）、Mary-Annick MOREL（現代仏語の形態・統辞論、イントネーションと統辞・意味分析）、D.DELOMIER（会話分析）、Pierre LE GOFFIC（ギョーム理論によるテンス・アスペクト・モダリティの分析）、Georges REBUSCI（生成文法）などの授業があります。DEAの取得には、年間175時間の授業と三つの報告（memoire, rapport, expose）が必要で、他大学よりも必修単位が多く設定されているようです。MORELやDELOMIERが近年会話フランス語の分析に力を入れていることもあり、学生も corpus の作成・分析を要求されます。

社会科学高等学院（Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales）

歴史・経済など25の博士課程コースの中で、言語学はSciences du langage コースにあります。Irene TAMBA（日仏対照言語学）、Pierre ENCREVE（社会言語学）Jacques JAYEZ（論理言語学）、Oswald DUCROT（論拠立て理論）、Jean-Claude ANSCOMBRE（動詞時制論）などがあります。全体には、意味論・語用論が盛んで、統語論は少数派です。

パリ第4大学

パリ4には学部レベルでは、Langue francaiseの U.E.R.があり、現在INALF所長のRobert MARTIN（Linguistique generale et linguistique francaise）、O.SOUTET（Systeme et histoire des systemes）、H.-D. BECHADE（Grammaire du francais moderne et contemporain）、G.MOLINIE（Theorie et methodes en stylistique et en semiostylistique）らが講義をしています。大学院ではこれとは別に、Linguistique generaleの博士コースがあります。講座を担当するAnde JOLYは、今年は前半はギョーム理論を基に、enonciation、冠詞、時制について講義をしています。この講座の前任者のBernard POTTIERは、数年前に退官していますが、まだセミナーをしており、今年は認知意味論および言語分析の原理について講義をしています。この他には、Michel DESSAINT（Semantique linguistique）、J.-P. DESCLES（Linguistique theorique et logique）などの授業があります。

*以上の情報は、金子真（パリ8）、中島晶子（パリ7）、中尾和美・塩田明子・川島浩一郎（パリ3）、瀬賀正章・大久保朝憲（高等学院）、安西記世子（パリ4）の諸氏からの情報をもとに、青木三郎（文責）がまとめたものです。

フランス語学 Mailing List 発足のお知らせ

最近話題になっているインターネットによるフランス語学の mailing listが今年1月に発足しました。

Mailing listというのは、そのリストに加入している会員全員に電子メールを自動的に送信するインターネットの機能のひとつです。誰でも mailing listの所在アドレスにメールを送ると、その

メールは全員に送信されますので、電子掲示板や電子会議室のようなことをコンピュータのネットワーク上で行なうことができ、たいへん便利なものです。言語学関係ではLinguistという世界的な mailing listが有名で、毎日膨大な情報がネットの上を流れています。

今回発足した mailing list は国内外のフランス語学関係者のためのもので、大阪大学言語文化部の三藤氏が世話役を引き受けてくださり、同学部の郡司隆男氏が技術顧問をしてくださっています。どちらもまったくのボランティアで、この場を借りてお礼を申し上げます。

mailing list に加入するためには、もちろんパソコンが通信できるよう接続されていなくてはなりません。接続にはNiftyserveやJustnetなどの商用ネットの会員になる方法と、大学や研究所の学内LANに接続する方法とがあります。このどちらでも mailing list に加入することができます。現在のところ、加入の資格などは特に定めていません。加入希望の方は、世話役の三藤さん (mito アットマーク lisa.lang.osaka-u.ac.jp) まで e-mail でご連絡ください。

また他の言語学関係の mailing list に関する情報に興味のある方は、東郷 (京都大学 togo アットマーク lapin.ic.h.kyoto-u.ac.jp) までお問い合わせください。

(東郷 雄二)

編集後記

お陰様で、『ニューズレター』第4号を無事完成することができました。原稿を寄せてくださった皆さんどうも有り難うございました。「海外大学言語学事情」に関しては、紙幅の関係で今回は寄稿して下さった原稿をまとめるかたちで掲載させていただき、割愛させていただいた貴重な情報もあります。それで、次号からは掲載方法をさらに工夫したいと思います。また、新しいコーナーを設けることも、現在のニューズレターの頁数では不可能に近い状態なのですが、さらにたくさんの有益な情報を皆さんにお届けできるように『ニューズレター』の増頁も考えていますので、おもしろい企画がありましたら、どうぞ編集委員までお知らせください。

(大木 充)